

平成 29 年 3 月 14 日

「長久手市自治基本条例 前文案」作成に至る経緯

前文ライティングチーム

- ① チームは、今年 1 月 9 日、2 月 8 日、2 月 21 日、の 3 回に渡り、5 人のメンバーが、長久手市への、この条例への思い、また自治 KEN において、これまでなされてきた議論などを踏まえ、活発な討論を行った。
- ② 1 月 9 日の初回では、「条例全体の柱」、「市政に関わるそれぞれが原点として戻る場所」としての前文という位置づけを確認し、リーダー（TAKU-SAN）が書いてきた「前文構成たたき台」を元に討論に入った。
このなかで、前文について▼長久手らしさ、他市町村に無いユニークさ▼老若男女が理解出来る、多世代が共感できるストーリー▼優しい文章、分かりやすい文章で大切なことを訴え、宣言したい、▼これまでの自治 KEN で出された言葉や思いを大切にしたい、▼感性に訴えるような「詩」的なものが良い、（←賛意多し）などの意見が出された。

その後、前文が「理念、精神」として含まなくてはならないコアなキーワードを抽出する作業に入った。結果・「緑を守る」・「市民が主役」・「多様性（懐の深さ）＜様々な人、様々な意見、決定プロセス、居場所等々＞」・「対話（自分と、人と）」・「自由と責任（行動と言葉に）」の 5 つの点について、その精神・理念は必ず盛り込むということを確認した。

メンバーの中には上記 5 点について、「これまでもいろんなところで掲げられ、諦めてきた事柄だ、理想で終わる虚しさがあるのでは」、という意見も出されたが、「現実は踏まえながらも理想の旗を掲げ続けるということが大切だ」という事で一致した。この過程では、それぞれの単語の持つ長久手における定義（例えば「自然」「多様性」「居場所」など）も確認しながらの作業となった。

上記の内容を踏まえ、メンバーの中の一人が書き上げ、それをみんなで添削して行くという制作過程が確認され、チームリーダーTAKU-SAN が 2 月 8 日の第 2 回ミーティングまでに第 1 案を提出することとなった。

- ③ 前回を受けた 2 月 9 日の討論では、TAKU-SAN が書いた前文第 1 案について、それぞれの感想が示され、議論に入った。
まず TAKU-SAN から、第 1 案を書くに当たり考えたことが以下のように披露された。
▼多くの市民に伝わること。行政用語、難易な漢語、流行の言葉、カタカナをなるべく

避けて平易な文章で「歌」「詩」のような親しみのあるものとした。その結果、年配者には「5・7調」に、若い世代には「ラップ調」として、「口に出して」親しんでもらえるような体裁に整えた。ウケを狙ったわけではない。全体が持つ品格は保たなければならないし、「官僚・権力目線」「上から目線」「富めるものの論理」は排除する。

▼前回の第1回討論で抽出された5つの精神をベースに、これまでの自治KENの議論で大切にされた理念、精神、言葉、重要だと指摘された単語はもちろんフレーズも最大限取り入れる。たけし、えいじ両先生の指導の元、これまで展開してきた自治KENでの条例作成の流れも踏まえる。

▼全体を家族構成とし、起承転結をつけて 前文に必要な「流れ」を意識した。その流れの中で「長久手の自治基本条例の持つ長久手らしさ」を出した。

▼ところどころで、「字余り」「字足らず」があるが、それは敢えて単調なリズムになることの「臭さ」を避けたため。

▼一番重要な文章については「歌」、ではなく「平叙文」とし、キチンと真面目に「宣言」と書いた。

以上を受けて、メンバーが感想を述べあい討論に入った。全体として「歌」は好意的に受け入れられ、反対する意見は無かった。好意的意見としては、「▼多くに親しんで貰える、▼小中学生でも口ずさめる、絵（景色）が浮かぶ、▼マイナス部分も入っているのが良い、▼「歌」の部分はメロディーをつけたり踊りにしたり劇やラップにしたりと様々な展開が考えられる、などがあがった。▼他にはないユニークさが良い。

一方で、「●歌は良いが、漠然としていて理念が伝わりづらいのでは？ ●いきなり「歌」ではなく、「決意宣言」が前にあったほうが良いのでは？●条文につなげていく上で、全体の最後に締めのような文章は必要だ、などの改善案も提示された。

この日の討論では、前文を「たまごサンド」に見立てて、「上のパン」で決意を述べ、美味しいタマゴ部分は「歌」にゆだね、「下のパン」で最後の締めにしよう、という事で一致、上記の意見と全体の構造（たまごサンド）を受けて、次回ミーティングまでに TAKU-SAN が改訂第2案を制作、メンバーが集まるまでに、それぞれの手元届いて置くように、市の長谷川さんが手配する事になった。

④ 2月21日、(三回目)提出された「改訂第2案」について、TAKU-SAN から説明がなされた。

- ・前回の討論結果を受けて、「たまごサンド」のように、「上のパン」のほうに、第1案では「下のパン」にあった「決意、宣言文」を書いてみた。
- ・そして、「歌」が持つ「軽い感じ」を引き締めるため、意義を再確認し、この前文が持つ精神理念を入れて、「下のパン」で二回目に提示されたメンバーの主張を加味してみ

た。しかし、「歌」での単語と重なることが多く、くどいと感じると、「歌」の持つ主張が薄くなり、「下のパン」全体としても重いので、コアにある単語を大事にしつつ、軽くなるよう、漉いてすいてみた。「歌」も重なりなど、くどく感じる箇所は訂正した。

これを受けて討論に入った。全体の「たまごサンド」の形は了承され、「下のパン」についても、条例の原点を主張、再確認出来ている、などを全体として構造も了承。「下のパン」部分の「キモ」は大切にしつつ「歌」との重なりや、「重い」部分を削いでいく作業をした。

次に、「歌」の部分について、マイナス点を入れるか点について、「ところが ボク のともだちは・・・」の節は本当に必要か、全体のイメージが悪くならないか、について話し合った。その結果「長久手バンザイ、いい事だらけ、夢だらけ、ではダメだろう」などの意見が出て、現実には踏まえなくてはいけないということで、この節はそのままにすることで一致した。

また、「歌」全体としての調子・リズム、言葉の使い方は適切か、漢字かひらがなか、欠けている重要な言葉はないか、理論的におかしい点はないか、全体に意味が重なってしまっている部分はないか、スペースの置き方や句読点の場所は適切か、など細かい点についてもチェックし、全体を整える作業をした。

作業を終えて、出来上がった前文をこの日メンバーの一人が作成してくれたイラスト付きのレイアウトに当てはめてみた。

最後に残ったのは、「上のパン」で使われた「最も重視するルール」という言葉。これは自治 KEN では「最も重視する条例」で一致した単語だ。ライティングチームでは「最も重要な規範」という言葉を使っていた。これについて、市役所当局から、「自治 KEN で決まった言葉とは違う」「やさしい単語が並んだ前文の中で、難しい単語なのでは？また下のパンに「ルール」とあるので統一したほうがいいのでは？」との指摘を受けた。そこで、リーダーの一任で「最も重視するルール」とさせていただいたが、たとえ難しい言葉とはいえ、「規範」という文字は置いておくべき、「ルール」では軽いという意見もあった。

3回目の討論を経て、改訂第3案を清書して、市役所事務方に提出することになった。

これでチームによる案作りは終え、これを市役所に持っていき、法令上問題ないか、などのチェックをしてもらい、最終的に3月14日の自治 KEN で発表することになった。

前文ライティングチームでは、ここに書ききれないメールや手紙のやりとりをしたりと、相当の時間を費やして、前文の制作に当たってきました。チームとしては胸を張れる自信作です。以上。